

エンデュランスのステロイド・スキャンダル さらに新事実が明らかに

HORSE & HOUND

2013 年 5 月 17 日

5 月 10 日、ロイヤル・ウィンザー・ホース・ショウで、初めて FEI ルールでのエンデュランス・ライドがおこなわれた。アラブ首長国連邦のライダーがこの FEI ウィンザー・ライドで優勝したにもかかわらず、この週はシェイク・モハメドにとってまた新たな不愉快な週となった。

水曜日（5 月 8 日）、サフォーク州ユーストン・パークでこの夏に開催される FEI ライドからドバイ馬術クラブがスポンサーを降りた、という衝撃的なニュースが発表された。この突然の決定は、2013 年のシリーズが中止になったことを意味する。

公式の説明はないが、ユーストンは、ステロイド・スキャンダルをメディアが執拗に追及したことの最初の犠牲者ではないか、と憶測されている。シェイク・モハメドによるスポンサー降板は、この後もあるのだろうか？

英国のライダーに打撃

ユーストンの 4 つのライドが失われたことは、英国のライダーに大きな打撃を与えている。チームの有力選手レイチェル・クラリッジはホース&ハウンド紙に語った。「私たちは来年の世界馬術選手権大会 (WEG) への馬の参加資格を取得するのに、6 月のユーストンから始めようと思っていました。今や、海外に行かなければ資格取得はできません。完全に計画を立て直さなければ。」

残された英国 FEI ライドは、ボコノック (Bocconoc)、キングズ・フォレスト、シークリフ、バーベリー・キャッスル、ザ・カレッジである。英国エンデュランス協会会長カレン・コリアーは言った。「このレベルのライドを 4 つも失ったのは残念ですが、もし可能ならば、我々は、その代わりとなる FEI ライドをどこか別の場所で開催できないか、機会を求める努力はします。」

複数のドーピング違反

先週、罷免された調教師マームード・アル・ザルーニが、8 年間という資格停止期間が長すぎるとして、突然に抗議文を発表した。彼は、先月、シェイク・モハメドのゴドルフィン厩舎所属の馬 11 頭がアナボリックステロイドの検査で陽性反応を示した後、裁定を受けていた（5 月 6 日のニュース）。

ゴドルフィンのレーシング・マネージャーであるサイモン・クリスフォードは、素早く、アル・ザルーニの処分からこの厩舎を切り離れた。

また、ホース&ハウンド紙が確証できる限りで、シェイク・モハメドとマクトゥーム・ファミリーの他のシニア・メンバーが所有するドバイの厩舎出身のエンデュランス・ホースがドーピング陽性で FEI 審

判所で裁定を受けた例が、2005 年以来 20 例以上もあった。

審判所がこれらの厩舎に対して業務の改善を繰り返し求めていたことが、オンライン・アーカイブに記録されている。

新たな「サポートメンバー(support personnel)」の手続きに違反したとして、ふたりの有名なマネージャー調教師が罰せられた。ムバラク・ハリファ・ビン・シャフヤ（2 年の資格停止）とアリ・サルマン・アル・サブリ（16 ヶ月の資格停止）である。ふたりとも現在は現場復帰しているが、当時はマクトゥーム厩舎の外で調教していた。

離脱を求める声

3 月、スイス馬術連盟は、グループⅦの国々（アラブ首長国連邦、サウジアラビア、カタール、ヨルダン、バーレーン）の多すぎるドーピング違反を抑えるために思い切った行動を取るよう、FEI に働きかけた。もしグループⅦが除外されれば、エンデュランスにおける違反は、世界中の障害飛越競技よりクリーンなものになるのだ。

FEI はスイスに返答したが、その返答内容を公開する予定はない。

また、ほかにも 2 つの有力な連盟がエンデュランスでの馬の骨折率の増加について 2012 年末に FEI に書状を送ったことが明らかになっている。ベルギーは、その骨折率は「想像を絶する割合」に達していると言い、来年の世界馬術大会のホスト国であるフランスは、「大きな大会でのあらゆる種類のウェルフェアに関わるスキャンダルを避けるため」の行動を要請した。

スイスは、規則違反を犯す地域から残りのエンデュランス競技を遠ざけるために、離脱すること、または、その地域を国際的な選手権から一時的に除外することも、提案した。

FEI 非オリンピック競技部長イアン・ウィリアムスは言った。FEI は馬のウェルフェアを福祉を維持するために "必要なあらゆる措置" を取ってきたと確信しており、「この競技における離脱の動きについては全く懸念していない」。

スイス、ベルギー、フランスの三国は、警戒すべき数値ゆえに FEI に訴えざるを得ないと感じてきた。イギリスも同じように動く可能性があるだろうか？

イギリス馬術連盟（BEF）の最高責任者アンドリュー・ファインディングは、彼はスイスの書簡に返答するようには求められていない、と述べた。

彼はつけ加えた。「BEF は、クリーンなスポーツに関する FEI のスタンスを強く支持している。あらゆる馬術競技の中で、馬のウェルフェアに最高の優先順位を与えていることについても。」

「私たちは、薬物を与えられた馬に対抗することはできません。」

エンデュランスは「公平な場で競われていません」、一部の中東諸国のドーピングのせいです、とイギ

リスのライダー、クリスティン・ヨーマンは言った。

「彼らが馬に与えている薬は、私は自分の馬には与えません。」

「私には勝てる力があるけれど、薬物に対抗することはできません」と、彼女はホース&ハウンド紙に語った。

「あなたはいつも彼ら（中東諸国）に一步遅れることになるでしょう。彼らは最高に驚異的な力を持っているのです。でも、少なくとも、もし彼らが薬物を使っていないことを知っていたら、競うことができたはずです。彼らは馬を傷つける。私たちはそんなことはしない。」

「FEI は、真剣に薬物を一掃する必要があります」と彼女は付け加えた。

2009 年に、ヨーマン夫人は、自身の馬が検査で陽性反応を示したことに對し、無過失の抗弁で FEI の裁定に異議を唱えた。サプリメントメーカーが混入を認めた後のことだった。

「FEI と闘ったのは、自分の名前を晴らしたかったからです。私にとって、エンデュランスがクリーンなスポーツであることは、本当に、本当に重要なのです。」と彼女は言った。

このニュース記事は、最初に、ホース&ハウンド誌（2013 年 5 月 16 日）に掲載された
オリジナルは 2013 年 5 月 20 日 horseandhound.co.uk に公開